



佐々木 章吾さん(62)  
きぬ子さん(60)  
＝前沢区駅東一丁目＝

## 雨の日も晴れの日も

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介

前沢区の駅東にお店を構えて30年以上。ヘアサロンササキを営むのが章吾さんときぬ子さんの夫妻です。昭和56年のオープン当初、章吾さん1人で切り盛りする店は、お客さんが少なかつたと言います。転機は翌年にきぬ子さんと結婚したこと。東京で理容師をしていたきぬ子さんの意見を取り入れ店の内装を変えたところ、昼食の時間もなくお客さんが

来るようになりました。「外観は床屋でも、中は普通の家のようにお客さんが来るとは思えなかつた」と当時を振り返るきぬ子さんに「グーラーが無かつたのが良くなかつたかな」と笑う章吾さんです。現在のお店は2軒目で、区画整理のため平成9年に移転してきました。「一生で店を2回建てることになるとは思わなかつた」と苦労を語る章吾さん。それでも、お客さんが「連携がすごい」と讃えたという2人の息の合った仕事で、店を盛り立ててきました。章吾さんの優しさに惹かれて結婚を決めたというきぬ子さん。今も変わらぬその優しさがあったから、ずっと一緒に働いてこられたと感謝します。きぬ子さんの感謝に「結婚して良かったといつても感じている。悪い時はない」と応じる章吾さん。お互いを思いやる2人は「このまま2人で働き続けたい」と願っています。

## 夢トーク

### 将来の夢は「検察官」



菊池 優梨さん  
(江刺区・稲瀬小学校6年)

Interview

—学校の役割は？

執行部の児童会長です。児童会総会でのあいさつや執行部のまとめ役が仕事です。

—小学校生活の思い出は？

教室で友達と笑い合っただけです。個性豊かなクラスメイトたちで、授業中も自然に笑いが起きたりして楽しかったです。

—好きな教科は？

体育です。走るのが好きで、学校のマラソン大会では女子の1位になりました。中学校では陸上部に入りたいです。

—好きな食べ物は？

トマトとバナナです。4歳のころにはもうトマト好きだったので、大きく口を開けてトマトにかぶりつく写真を家族から見せてもらったことがあります。

—将来の夢を教えてください。

検察官です。ドラマの検察官が、無罪になりそうな犯人をきちんと有罪にしたのがカッコイイと思いました。前はすぐ怒ってしまうことがありましたが、ドラマの検察官のように冷静であることを心掛けるようになってからは、怒ることが減りました。

## 青春讃歌

### 男子卓球部 (前沢高等学校)

- ◎部員数 6人
- ◎顧問 寺林 裕也 先生
- ◎部長 高橋 典史 君(1年)
- ◎主将 工藤 俊貴 君(1年)



### 2年ぶりに活動再開 勢いのある部を目指す

「校長先生に掛け合っただけでも卓球部を復活させるつもりでした」——。入学時の思いを語る高橋典史部長。同じ水沢南中出身の工藤俊貴主将と共に、卓球部を復活させました。次々に仲間が増え、今では1年生3人、2年生3人の6人で活動しています。

部の特徴は、1年生がリーダーを務めているということ。2年生は卓球経験がなかったり、ブランクが長かったりしたため、必然的に今の形となりました。もう一つの特徴は、6人の戦型がそれぞれ違うということ。意図的ではなく、みんなが戦いやすいスタイルを求めた結果だそうで「みんな違ってバランスがいいです」と高橋部長は語ります。

活動再開から1年に満たない部ですが、昨年の新人戦では、地区大会でベスト4、県大会でも1勝を

上げています。夏の大会に向け、今は練習を重ねる日々。基本練習を中心に、フットワークを鍛えることにも余念がありません。勝利を求める部員たちに顧問の寺林先生も「一人一人がどこまで本気になれるか。心一つにし高い目標を追いかけてほしい」とエールを贈り、時に練習相手を務めます。「前沢高校はバドミントン部が有名ですが、負けにくい勢いがある部になりたい」と意気込む高橋部長。彼らの挑戦はまだ始まったばかりです。



3球目攻撃を意識して練習

青春讃歌掲載団体募集！▼生徒・児童が参加する学校外の団体が対象です。詳しくは、本庁政策企画課広聴広報係（内線418、kouhou@city.oshu.wate.jp）までお問い合わせください。※応募順に掲載します。現在、応募から掲載まで半年ほど時間をいただいております。

## おおうしゅう 羅針盤



2月1日に名古屋市中で開催された企業ネットワークいわてin名古屋に出席しました。中部地方で本県に関心のある企業などから約300人が出席。本県の将来性や進出のメリット、I・L・C関連産業の現状や取り組み状況が紹介されました。このようなイベントを契機に企業誘致や取引拡大につなげてまいります。

初代内閣鉄道院総裁を務めた後藤新平の縁でJR東京駅の江藤駅長に南部鉄瓶を寄贈してまいりました。南部鉄瓶は天皇陛下や各国の来賓が利用する貴賓室に置かれます。名譽なことであり、業界発展の一助になればと願います。昔ながらの農作業の風習を今に伝える胆沢の祭り「全日本農はだてのつどい」が開催されました。厄年連による福俵引きなど多彩な催しが繰り

広げられました。また、120年以上の伝統を誇る黒石寺蘇民祭が開催されました。「ジャッソウ、ジョヤサ」の掛け声とともに男衆による蘇民袋争奪戦が繰り広げられました。五穀豊穡、無病息災を祈願しました。

市産食材を活用したアイデア料理を競い合う「食の黄金文化・奥州料理コンクール」の表彰レセプションと、地元菓子店などのこだわりおやつがずらりと並んだ「おやつフェスティバル」が盛大に開催されました。本市の「食」にまつわる魅力や知名度アップを図ってまいります。

奥州の冬の風物詩、市民による手作り舞台の奥州市民文士劇「石川五右衛門」、奥州前沢劇場「青春の坂道——前沢高校 我等が母校」、奥州胆沢劇場「怒者伝」が上演されました。キャストやスタッフが一丸となり準備や稽古に励み望んだ舞台に会場は感動に包まれました。今後も続けていただき、まちづくりの一助になることを期待します。

奥州市長 小沢昌記